

平成30年（行コ）第13号

控訴人 山口県知事村岡嗣政

被控訴人 河 濟 盛 正 外40名

## 意 見 陳 述 書

2019年2月4日

広島高等裁判所第4部 御中

被控訴人 小 畑 太 作

### 1 はじめに

わたしは山口県宇部市にある日本基督教団宇部緑橋教会というキリスト教の教会の牧師です。

### 2 免許権者たる知事の違法行為

さて、この機会に、裁判長に先ず申し上げたいことは、係る公有水面埋立免許の、特にその延長許可が如何にひどいかです。

拙撰で住民の理解が得られない強引な事業計画だと多くの県民から上げられた、批判の声をよそに、中国電力(株)による上関原発建設用地のための公有水面埋立免許申請に対して二井関成山口県知事は、2008年10月これを免許しました。竣工期限は着手日から3年でした。しかし予想どおり住民の反対運動により埋立工事は全くと言ってよいほど進みませんでした。

そして埋立期間が半ばを過ぎようとする時、2011年3月、あの東日本大震災と福島原発事故が起きたのです。

慌てた二井知事は、工事の中断を中国電力(株)に要請します。更に二井知事は、

国政府がエネルギー政策から原発の新規建設をなくしたことを受け、同年6月の県議会では「たとえ延長の許可申請があったとしても、それを認めることは出来ない」と公言したのです。

ところが、翌2012年8月に就任した山本繁太郎山口県知事は、同年10月、何ら状況の変化のない中、埋立免許が失効する直前に中国電力(株)が出した免許伸張許可申請に対して補足説明を求めることを繰り返しはじめ、実質的に免許期間を延長したのです。公有水面埋立法は免許伸張許可について「正当の事由ありと認むるとき」(第13条の二)と規定しているのに、これに対して知事は、“事由があるかないか判断できないからだ”と——これは会社も行政も本事業に対して見通しを持っていないと言うことを自ら露呈しているに違いないわけですが、それがあたかも理由になるかのように強弁したのです

この不法で不当だと言わざるを得ない補足説明要求は、次の村岡嗣政知事にも引き継がれ、都合7回にもわたる補足説明要求が為されました。この間に当初の伸張期間も越え、中国電力(株)は改めて伸張許可申請をしています。

果たして、2016年8月、村岡知事は2019年7月迄の免許伸張を許可しましたが、国政府のエネルギー政策には、従前通り新規原発建設は含まれていないのです。知事が唯一、許可の根拠とした「重要電源開発地点」の指定は、福島原発事故以前のものしかありません。また、ご承知の通り福島原発事故は、実際は収束には程遠いのです。現実逃避としか言わざるを得ない事故の収束宣言をした国政府の原発輸出政策が破綻したのは当然のことです。

にもかかわらず、中国電力(株)は、新規原発である上関原発建設に執着し続け、今年7月で期限となる埋立免許を更に伸張申請することを公言し、年明けから様々に画策しています。しかしながら、ここまで埋立が出来ていないことは、本事業とこれに伴う埋立免許の違法性を表していると言ふべきものです。

この様な甚だしい権力の濫用に対して、公金支出の返還請求を命じた山口地裁

の判決は当然だと考えます。ところがこの判決に対して村岡知事は「争点ではないところで判決が出された」などと公言し控訴しました。

裁判長に申し上げたい二点目は、この控訴の不当についてです。

### 3 更なる罪過である控訴について

村岡知事は一体、住民訴訟を何だと考えておられるか。違法な公金支出を問われていたにも拘わらず、これに真摯に向き合おうともせず、争点を逸らそうとしてきたのは知事をはじめとする被告側です。

これまでもわたし達、原告並びに支援者は、そして弁護団も、生活基盤となる仕事をやりくりし、自費でこの裁判を闘ってきました。そしてこれからもです。

その一方で、村岡知事ならびに山口県庁は、違法な公金支出との判決を受けながら、そしてこれまでの身勝手な振る舞いを顧みないどころか責任を転嫁し、またしてもこの控訴審で不当に公金を費やそうというわけです。

わたし達は主権者として、断じてこの様な権力者の横暴を見過ごすことはしません。もとより、憲法が定めるとおり見過ごしてはならないと考えます。

### 4 おわりに

福島原発事故の現実を顧みない、また世界情勢に反した国政府の、そしてそれに追随する山口県政による原発政策、ましてや新規原発建設などは、将来、愚策の最たるものとして歴史に刻まれることでしょう。

第一審の判決を受けた時、わたし達はこの国の司法に正義と希望を見出しました。どうかこの広島高裁におかれましても、現政権に屈することなく、市民の権利のために、生活のために、そして未来の子ども達のために、誇り高い平和憲法に基づいた、恥ずかしくない公正な判決を出して下さることを切にお願いして、わたしの意見陳述を終わります。

以上